2026年9月8日
T.Kobayashi

古事記に学ぶ その 31
日嗣の御子がいない、またいない・・・

19代允恭天皇→20代安康天皇→21代雄略天皇→22代清寧天皇と親から子へ、兄から弟へとつながってきたが、清寧天皇の代で日嗣の御子がいない事態となった。窮余の策として、17代履中天皇の孫が登場して23代顕宗天皇が実現し、これを兄の仁賢天皇が受け継いだのだが・・・・・。

## <1> 仁賢（じんけん）天皇

顕宗天皇（袁祁王：おけのみこ）のあとを受けて、兄の意富祁王（おおけのみこ）が24代の仁賢天皇になった。
仁賢（じんけん）天皇は大和の石上（いそのかみ）に広高の宮を造って、天下を治めた。
雄略天皇の御子である●春日大郎女（かすがのおおいらつめ）を妻として、●高木郎女（たかきのいらつめ）・●財郎女（たからのいらつめ）・●久須毘郎女（くすびのいらつめ）・●手白髪郎女（たしらがのいらつめ）・●小長谷若雀命（をはつせのわかさざきのみこと）・●眞若王（まわかのみこ）を生み●丸邇（わに）の日爪（ひつま）の臣の娘である●糠若子郎女（ぬかのわくごのいらつめ）を妻として、●春日山田郎女（かすがのやまだのいらつめ）を生んだ。
御子の数は七柱で、小長谷若雀命（をはつせのわかさざきのみこと）が次の天皇になった。

## <2> 武烈（ぶれつ）天皇

小長谷若雀命（をはつせのわかさざきのみこと）は、大和の長谷に列木（なみき）の宮を造って25代天皇として8年間國を治めた。列木（なみき）の宮があった所は、近鉄大阪線の長谷寺駅と大和朝倉駅の中間に位置する初瀬街道沿いの所で、現在は十二柱神社がある。神代七世と地神五代を祀っていることからこの名がついたとのこと。
この天皇には日嗣の御子がいなかった。そこで、御子の代わりに小長谷部（おはつせべ）を定めた。
この天皇が崩じたあとに、応神天皇（品陀和気命：ほむだわけのみこと）の五世の孫である●袁本杼命（おほどのみこと）を近淡海（ちかつおうみ）から呼んで、仁賢天皇の皇女●手白髪命（たしらがのみこと）と一緒にして天下を治める位に就けた。（またの名を手白髪郎女と言う）
武烈天皇の陵は、片岡の石坏（いわつき）の岡に造られた。

## ＊閑話休題

応神天皇には后が10人いたので、袁本杼命（おほどのみこと）はどこから出た何者なのかわからず、いったん手を休めて調べてみた。
応神天皇と息長眞若中比売の間に生まれたのが若沼毛二俣王（わかぬけふたまたのみこ）。
若沼毛二俣王は、母の妹である百師木伊呂弁（ももしきいろべ）を妻として7人の御子を生んだが、その第一子が、大郎子（おおいらつこ）・またの名を意富富杼王（おおほどのみこ）。
意富富杼王（おおほどのみこ）は、三國の君・波多の君・息長の君・坂田の酒人の君・山道（やまじ）の君・筑紫の米多（めた）の君・布勢の君などの祖先になった。
意富富杼王の妹の忍坂之大中津比売命（おさかのおおなかつひめのみこと）はのちに允恭天皇の后になった。（古事記に学ぶ その 23）

他の文献も並べて調べてみると、この意富富杼王（おおほどのみこ）と●中斯知命（なかしちのみこと）の間に生まれた御子が●乎非王（おいのみこ）。乎非王（おいのみこ）の子が●彦主人王（ひこうしのみこ）で、その子が袁本杼命（おほどのみこと）であり、応神天皇の傍系の五代後になる。

## <3> 継体（けいたい）天皇

袁本杼命（おほどのみこと）は、大和の伊波礼（いわれ）に玉穂の宮を造って、26代継体（けいたい）天皇と名乗った。
この天皇は、三尾（みお）の君などの祖先である●若比売を妻として、●大郎子（おおいらつこ）・●出雲郎女（いずものいらつめ）の二柱を生んだ。
また尾張の連などの祖先である●凡（おおし）の連の妹●目子郎女（めこのいらつめ）を妻として、●広國押建金日命（ひろくにおしたけかねひのみこと）・●建小広國押楯命（たけをひろくにおしたてのみこと）の二柱を生んだ。
また仁賢天皇の御子である手白髪命を大后として、●天國押波流岐広庭命（あめくにおしはるきひろにわのみこと）を生み、
●息長眞手王（おきながのまてのみこ）の娘●麻組郎女（まくみのいらつめ）を妻として●佐佐宜郎女（ささげのいらつめ）を生み、
●坂田大俣王（さかたのおおまたのみこ）の娘●黒比売（くろひめ）を妻として●神前郎女（かむざきのいらつめ）・●茨田郎女（まむたのいらつめ）・●馬来田郎女（まくたのいらつめ）の三柱を生んだ。
さらに、茨田の連●小望（をもち）の娘●関比売（せきひめ）を妻として●茨田大郎女（まむたのおおいらつめ）・●白坂活日郎女（しらさかのいくひのいらつめ）・●小野郎女（をののいらつめ）別名●長目比売（ながめひめ）の三柱を生んだ。
三尾の君●加多夫（かたぶ）の妹●倭比売（やまとひめ）を妻として●大郎女（おおいらつめ）・●丸高王（まろこのみこ）・●耳王（みみのみこ）・●赤比売郎女（あかひめのいらつめ）の四柱を生んだ。
阿倍の●波延比売（はえひめ）を妻として●若屋郎女（わかやのいらつめ）・●都夫良郎女（つぶらのいらつめ）・●阿豆王（あづのみこ）の三柱を生んだ。
この天皇の御子は、合わせて19柱いた。
19 柱の御子の内、天國押波流岐広庭命（あめくにおしはるきひろにわのみこと）・広國押建金日命（ひろくにおしたけかねひのみこと）・建小広國押楯命（たけをひろくにおしたてのみこと）が後の世で天下を治め、佐佐宜郎女（ささげのいらつめ）は伊勢神宮を祭った。
この天皇の御世で、筑紫の君である●石井（いわい）が天皇の命令に従わず、問題を起こすことが多かったので、物部（もののべ）の●荒甲（あらかい）の大連と大伴の●金村（かなむら）の連を筑紫に送り、石井を討伐させた。（筑紫の磐井の乱）
この天皇は、43歳で崩御、陵は三島の藍（あい）に造られた。
本書（現代語訳　古事記）では陵の場所（現在の地図での場所）を、「茨木市太田」と添え書きしているが、國學院大學古典文化学の web に記されている情報によると、茨木市太田の太田茶臼山古墳は宮内庁の比定によるもので、考古学的な検証からすると「高槻市郡家新町」の今城塚古墳が真陵であることが有力視されているとのことだった。

## <4> 安閑（あんかん）天皇

継体天皇と目子郎女（めこのいらつめ）の間に生まれた第一子、広國押建金日命（ひろくにおしたけ

かねひのみこと）が27代天皇となった。大和の勾（まがり）に金箸の宮を造って天下を治めた。
この天皇には御子がなかった。陵は河内の古市（ふるち）の高屋の村に造られた。
金箸の宮があったのは、現在の地図で見ると橿原市曲川町で、JR 桜井線の金橋駅の北方になる。
金橋神社があり、そこに石碑が建っているとのこと。

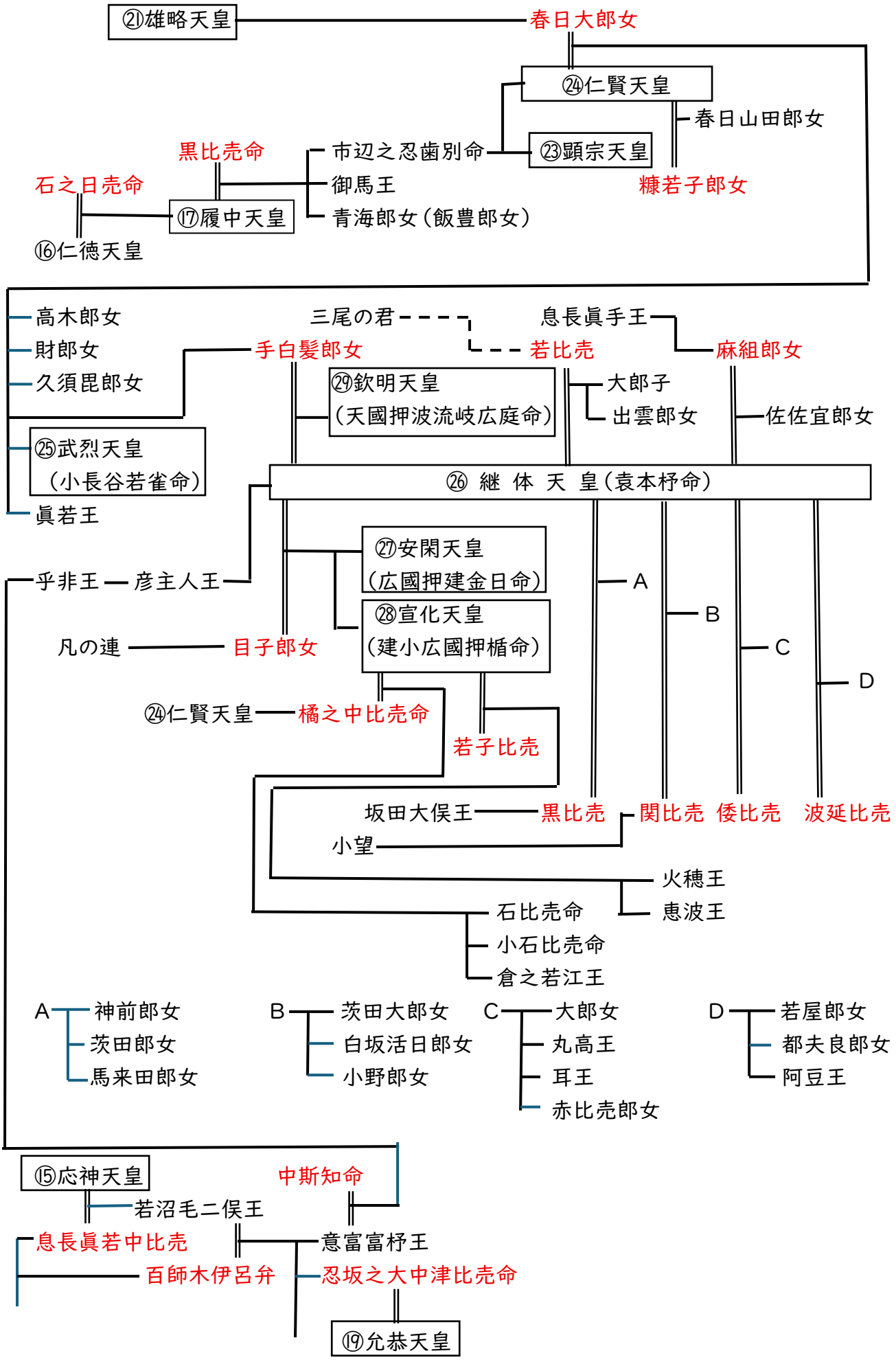
## <5> 宣化（せんか）天皇

安閑天皇の弟である建小広國押楯命（たけをひろくにおしたてのみこと）が28代の宣化天皇となった。大和の檜坰（ひのくま）に廬入野（いおりの）の宮を造って天下を治めた。
仁賢天皇の御子●橘之中比売命（たちばなのなかつひめのみこと）を妻として、●石比売命（いしひめのみこと）・●小石比売命（をいしひめのみこと）・●倉之若江王（くらのわかえのみこ）を生み
河内の●若子比売（わかごひめ）を妻として●火穂王（ほのほのみこ）・●恵波王（えはのみこ）を生んだ。御子の数は合計5柱だった。
火穂王（ほのほのみこ）は、志比陀（しひだ）の君の祖先、韋那（いな）の君、多治比（たじひ）の君の祖先となった。
遡って仁賢天皇の系図を確認してみたが、橘之中比売命という御子の名は載っていなかったので素性はわからなかった。

宣化天皇の腹違いの弟である天國押波流岐広庭命（あめくにおしはるきひろにわのみこと）が、次の29代の欽明天皇となった。

＊次頁資料：24代仁賢天皇から29代欽明天皇の誕生までの流れ（系図）

以上


㉑雄略天皇
春日大郎女
㉔仁賢天皇
春日山田郎女
黒比売命
市辺之忍歯別命
㉓顕宗天皇
石之日売命
御馬王
糠若子郎女
⑰履中天皇
青海郎女（飯豊郎女）
⑯仁徳天皇
高木郎女
三尾の君
息長眞手王
財郎女
手白髪郎女
若比売
麻組郎女
久須毘郎女
㉙欽明天皇
（天國押波流岐広庭命）
大郎子
出雲郎女
佐佐宜郎女
㉕武烈天皇
（小長谷若雀命）
㉖ 継 体 天 皇（袁本杼命）
眞若王
㉗安閑天皇
（広國押建金日命）
乎非王
彦主人王
A
㉘宣化天皇
（建小広國押楯命）
B
凡の連
目子郎女
C
D
㉔仁賢天皇
橘之中比売命
若子比売
坂田大俣王
黒比売
関比売
倭比売
波延比売
小望
火穂王
恵波王
石比売命
小石比売命
倉之若江王
A
神前郎女
茨田郎女
馬来田郎女
B
茨田大郎女
白坂活日郎女
小野郎女
C
大郎女
丸高王
耳王
赤比売郎女
D
若屋郎女
都夫良郎女
阿豆王
⑮応神天皇
中斯知命
若沼毛二俣王
息長眞若中比売
意富富杼王
百師木伊呂弁
忍坂之大中津比売命
⑲允恭天皇